

書評

郡健二郎 著

科研費 採択される3要素

アイデア・業績・見栄え

高久史磨

筆者の郡健二郎先生は泌尿器科学を専門とされておられ、そのご業績に対して紫綬褒章をはじめ、数々の賞を受賞されておられるが、その中に2004年に受賞された、「尿路結石症の病態解明と予防法への応用研究」と題する論文に対する日本医師会医学賞がある。私はそのとき、日本医学会の会長として医学賞の選考に携わったが、この医学賞は日本医学会に加盟している基礎・社会・臨床の全ての分野の研究者から申請を受け、その中の3名だけに受賞が限られるので、泌尿器系の先生が受賞されるのは珍しいことであった。そのため郡先生のことは私の記憶に強く残っていた。その郡先生が上記の題で200ページ近い本をご自身で執筆されたことは私にとって大きな驚きであった。

この本は「研究の楽しさ、美しさ」「科研費の制度を知る」「申請書の書き方」「見栄えをよくするポイント」の4章に分かれているが、特に第3章の「申請書の書き方」では実際の申請書の執筆形式に沿う形で、それぞれの項目において基本的に注意すべき点(基本編)と、実際にどのように書くか(実践編)について詳細に記載されており、科研費を申請される方にとってきわめて有用かつ実用的な内容となっている。

また、第4章の「見栄えをよくするポイント」についての記述には、今まで数多くの科研費の審査に当たってきた私自身にとっても思い当た

る点が数多くあり、郡先生が本書で述べている科研費が採択される3要素の一つに「見栄え」を挙げられた理由がよく分かった。私の経験では、科研費の審査の際、どうしても申請内容の新規さと申請者の過去の業績に目が向きがちであったが、考えてみると読みやすさも評価の大きなポイントであった。

2013年にあったディオバン事件を契機にして、従来からあった企業からの奨学寄付金はかなり減額したと聞いている。また、国立大学法人への運営費交付金も毎年減額されており、研究者は文部科学省の科学研究費、AMEDからの科研費、民間の研究助成財団からの研究費などを受けなければ研究ができない状況になっている。郡先生が第1章で書かれているように、わが国からの研究成果の発表論文数は減少しており、中国に追い抜かれつつあるのが現状である。本書を精読することによって、能力のある研究者が科研費をより多く受けられるようになることを期待している。したがって、本書はわが国の医学の進歩にきわめて重要な役割を果たすと考えられ、本書を出版された郡先生に心から敬意を表したい。

(日本医学会会長)

●B5 196頁 2016年7月 定価：本体3,800円＋税 医学書院刊